

【談話】

「維新の会」共同代表：橋下徹氏（大阪市長）や石原慎太郎氏らの 「慰安婦は必要」等発言に、しまね労連は断固抗議する

5月13日、「日本維新の会」の橋下徹共同代表（大阪市長）は、記者レクチャーで、旧日本軍「慰安婦」問題にふれ「銃弾が雨嵐のごとく飛び交う中で命をかけて走っていくときに、精神的にも高ぶっている猛者集団をどこかで休息させてあげようと思ったら、慰安婦制度が必要なのは誰だってわかる」などと述べました。

また橋下氏は5月1日、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）を視察し、同飛行場の司令官と面会した際に「合法的に性的なエネルギーを解消できる場所が日本にはある。真っ正面から風俗業を活用してもらわないと、海兵隊の猛者の性的なエネルギーをコントロールできない」と述べ、「日本の風俗業を活用してほしい」と促していたことを明らかにしました。

さらに、翌14日には「男に性的欲求を解消する策が必要なことは厳然たる事実」などと、25回も自身のツイッターを更新し、持論を公開しています。

石原慎太郎共同代表は「軍と売春はつきもの」、「橋下は基本的に間違っただけだ」と述べ、これを擁護しました。

松井一郎幹事長（大阪府知事）も「現実に（慰安婦制度が）あったというのは、必要とされていた」と、同党上げて「慰安婦問題」や「売春」まで肯定する発言を繰り返しています。

しまね労連は、「維新の会」が、戦争という暴力の遂行のためなら、女性の性を利用することが当然だとする発言や姿勢を、ここまで露骨にあらわしたことに驚嘆しました。

「維新の会」が日本の公の政党として、このような姿勢を世界に曝すことを、日本の恥辱と感じます。

しまね労連は、「維新の会」のこの姿勢について、すべての女性に対する冒瀆であり、人権蹂躪、人間の尊厳をも傷つけるものであることを厳しく指摘し、満身の怒りをもって抗議します。

旧日本軍「慰安婦」問題の真の解決は、「慰安婦」にされた女性たちの勇気ある訴えに対し、日本政府が過去の歴史を欺かず、謝罪・補償することです。

橋下氏などの発言は、アジアの中で、今もなお苦しみを抱え、日本政府の謝罪を待つ旧日本軍による性的被害者の心を踏みにじるもので、断じて許せません。

また、在日米軍に対して違法な売買春を推奨するなど、日本の政治家としても、根本からその資格が問われるものです。

橋下氏らにはただちに発言を謝罪し、政治の場から退席することを求めます。

しまね労連は、改めて早期に日本軍慰安婦への日本政府の正式な謝罪と補償を求めるものです。

橋下氏ら「維新の会」の発言の根底には、憲法を改憲し、「戦争できる国づくり」をすすめるようとする危険な狙いがあることは明白です。

しまね労連は、米軍基地撤去、改憲策動反対、憲法9条を守るたたかいに全力を挙げて取り組むことを、あわせて表明します。

2013年5月15日

島根県労働組合総連合 事務局長 都田 哲治